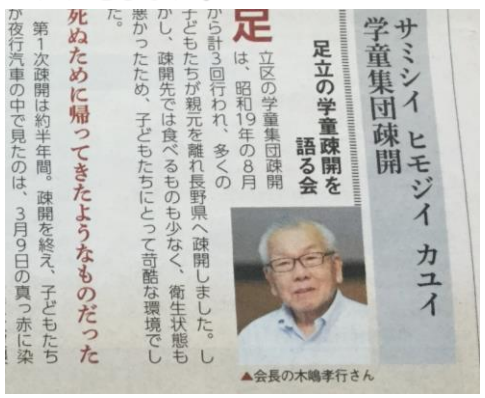
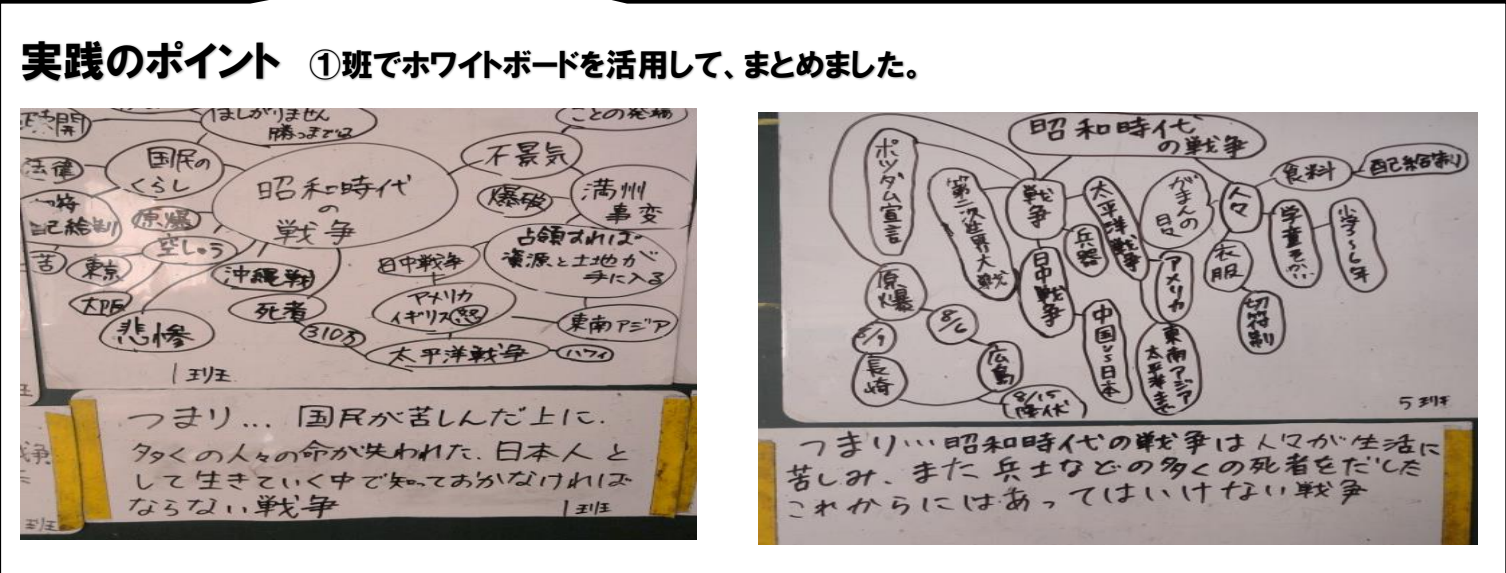


# 自分と社会とのつながりを実感し、進んで関わろうとする社会科授業の工夫 ～6 年「長く続いた戦争と人々の暮らし」の実践を通して～

## 小単元の目標

日華事変や我が国にかかわる第二次世界大戦について資料を活用して調べ、戦争がアジア・太平洋地域に広がっていく経緯や、社会の様子や人々の暮らしに与えた影響、国内外の被害の状況について理解するとともに、戦争を語り継ぐことの大切さについて考えようとする事ができる。

## 小単元の指導計画と評価計画 (8 時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	○主な学習活動 □問い ・予想される児童の反応	◎資料 実践のポイント
つかむ	①②資料から疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	○原爆ドームの原爆投下前と後や東京大空襲、当時の生活の様子について調べる。 ・東京や広島がこんな状態になるなんて。 ・当時の人の生活は大変そうだな。 ・足立区にも多くの被害が出たのではないかな。  昭和時代の戦争は、どのような戦争だったのだろう。  ○3つの戦争の概要を比較し、疑問に思ったことを発表し合う。 ○疑問を整理し、学習問題をつくる。  長く続いた戦争は、どのようなものだったのだろう。  ○年表をもとに学習問題の予想をする。 ○予想をもとに学習計画を立てる。	◎東京大空襲の被害 (地図) ◎北千住の空襲の写真 (写真) ◎日清・日露戦争、昭和の戦争の戦死者の推移 (表・グラフ)  <b>実践のポイント</b> <b>①自分の住んでいる地域の空襲の被害を出しました。</b> <b>②今まで学習した戦争と死者数や戦争をした期間、相手国を比較しました。</b>
調べる	③中国との戦争がどのように始まり、広がっていったのか調べる。 ④戦争がアジア・太平洋の各地へ広がっていった経緯や背景、影響について調べる。	中国との戦争は、どのように始まったのだろう。  ○満州事変をもとに、本時のめあてをつかみ予想を立てる。 ○日中戦争、国際連盟脱退について調べる。 ・満州事変をきっかけに、日本は中国に満州国をつくった。  戦争は、アジア・太平洋地域にどのように広がっていったのだろう。  ○日中戦争の広がりの様子から、本時のめあてをつかむ。 ・中国だけではなく東南アジアまで進出している。 ○中国との戦争がアジア・太平洋地域に広がった経緯について調べる。	◎日中戦争の広がりの様子 (地図) ◎第二次大戦中の世界の様子 (文章資料、地図)  <b>実践のポイント</b> <b>①地図を使って、戦地が、アジア・太平洋地域にひろがったことを理解させました。</b>
調べる	⑤戦争中の暮らしの様子について、ゲストティーチャーの話から当時の様子を調べる。	戦争中、人々はどのような暮らしをしていたのだろう。  ○ゲストティーチャーの話をもとに、当時の小学生の様子について調べる。 ・空襲が激しくなると伊興小学校は、長野のお寺に集団疎開した。 ○当時の国民の思いについて考え、話し合う。 ・全てが戦争のためであり、苦しい生活をしていることがわかった。	<b>実践のポイント</b> <b>①より身近に感じてもらうために足立区学童疎開を語る会の方に来ていただきました。</b> 
調べる	⑥沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、敗戦に至る経緯を調べ、戦争で人々が受けた被害や諸外国への被害の大きさを理解する。	沖縄戦や広島・長崎への原爆投下は、どのようなものだったのだろう。  ○沖縄戦や広島・長崎への原爆投下について調べる。 ・沖縄戦や広島・長崎への原爆投下で多くの犠牲者が出た。 ○第二次世界大戦で亡くなったアジアの人々の被害の大きさについて調べる。 ○原爆ドームやひめゆりの塔が現在も残っていることについて、自分たちの考えを話し合う。	
まとめる	⑦これまで学習してきたことを整理し、学習問題についての考えをまとめる。	○学習問題に対する考えをまとめ、短い言葉で表すとどのような戦争だったかを話し合う。  <b>実践のポイント ①班でホワイトボードを活用して、まとめました。</b> 	

いかす	<p>⑧戦争について語り継ごうとする人について調べ、今後、自分たちはどのようにしていけばよいのかを考え、表現する。</p>	<p>今後、どのようにすれば、戦争を伝え続けられるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○戦争体験者の年齢が高齢化している問題点を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争を忘れてしまうかもしれない。</li> </ul> </li> <li>○戦争を経験していない足立区原爆被害者の会語り部の沢村さんの思いを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが語り継がないと、戦争体験者の記憶が消えてしまう。</li> </ul> </li> <li>○課題に対しての自分の考えを班で伝え合い、全体で交流する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも事実として戦争についてしっかり学習していけば、戦争を伝え続けられる。</li> <li>・原爆の日や終戦記念日をしっかり覚えれば戦争を伝え続けられる。</li> </ul> </li> <li>○話し合ったことをもとに、学習感想を書き発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎戦争体験者の人口の変化 (グラフ)</li> <li>◎沢村さんのインタビュー資料 (文章資料)</li> <li>◇戦争を語り継ぐ人々の証言から、平和に対する願いについて調べ、今後、戦争を語り継ぐためにどのようなことが必要か考えている。(ノート)</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>実践のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①戦争体験者が年々減っていくこと資料として提示しました。</li> <li>②戦争経験をしていないが語り部をしている方を調べ、自分達にも何かできることがないか考えました。</li> </ul> </div>
-----	---	--	---

### 「原爆被害を語る沢村さんの話」

私は、広島での原爆被害を語り部として伝えています。現在、小学生から若者を中心に、学校や公共施設で戦争や原爆が落とされたときの様子を語っています。



#### Q 1 どうして語り部をしようと思ったのですか。

A 1 私が語り部を始めたきっかけは、おかしいなと思うことから始まりました。私は広島県出身です。大学から東京に来ました。会社に就職して、今の人たちと同じように戦争や原爆について何も考えていませんでした。しかし、8月6日や8月15日に黙とうをしないことにおかしいと感じるようになりました。広島では、必ず黙とうや記念式典が行われているのに、同じ日本なのに東京もたくさん亡くなった方がいるのにどうしてやらないのだろうと思い、戦争や原爆を伝える活動を始めてみようと思いました。

#### Q 2 戦争を経験していなのに戦争を語る事ができたのですか。

A 2 私は戦争を体験していません。ですから、戦争体験者の方の話を聞いてそれを同じように話すのにとっても苦労しました。ですが、教えてくださった戦争体験者の方が、高齢で亡くなったり、病気で話すことが難しくなったりしたときに、私たちが語り継がないとこの人たちの戦争の記憶きおくが消えてしまうと思いました。そのとき、戦争を体験していませんが、私達が戦争や原爆のおそろしさを伝えなくてはという思いが強くなりました。

#### Q 3 小学6年生に何を伝えたいですか。

A 3 私は、語り部として、「平和は私たちがつくること、平和はあたりまえでないこと」を強く伝えています。そして、自分にとって平和とはどのようなことなのかを考えてほしいと思います。戦争や原爆のことを知らない、怖いと感じるだけではなく、日本がした事実をしっかりと受け入れてほしいと思います。